

Thomas-Young (1773 - 1829)

材料の引張り弾性率(ヤング率)に名を残すヤングは、1773年6月13日にイギリスのサマーセット州・ミルバートンに生まれた。2才で字を読み、4才で聖書を2回読んだと言われ、幼少から「神童」「天才」の名前をほしいままにした。エディンバラ大学、ゲッティンゲン大学(独)、ケンブリッジ大学で医学を修めた。二十歳を過ぎてもただの人にはならず、眼科医として開業することで生計を立てるかたわら、56年の生涯にわたって、王立研究所自然哲学教授、海軍省顧問、保険会社監事を歴任するほか、エジプトの象形文字に関して論文を発表するなど古典学者・考古学者の側面も持っていた。

自然科学上の発見としても、眼科医として「眼の焦点調節の原理の発見と検証」、「乱視の発見」、「色の三原色の理論の提唱」が挙げられる。物理学者としては、当時主流であった

「光の粒子説」に対して、「光の波動説」に組し、光の干渉性を実験的に証明する以外にも、光が横波であることを見出した。ヤング率も、そもそもは材料中の音波の伝播になぞらえて、光の伝わる物質の硬さを考える上で得られた概念といわれている。表面化学で有名な「接触角と表面張力(表面自由エネルギー)」の関係を表すヤングの式もやはりこの人物に由来している。当時ノーベル賞が制定されていたならば、二桁の受賞に匹敵するであろう業績を挙げて、1829年5月10日にロンドンで死去した。

(神戸大学 西野 孝)

参考文献

- 1) 世界科学者事典 / D・アボット / 原書房
- 2) 科学技術 人名事典 / I・アシモフ / 共立出版株式会社